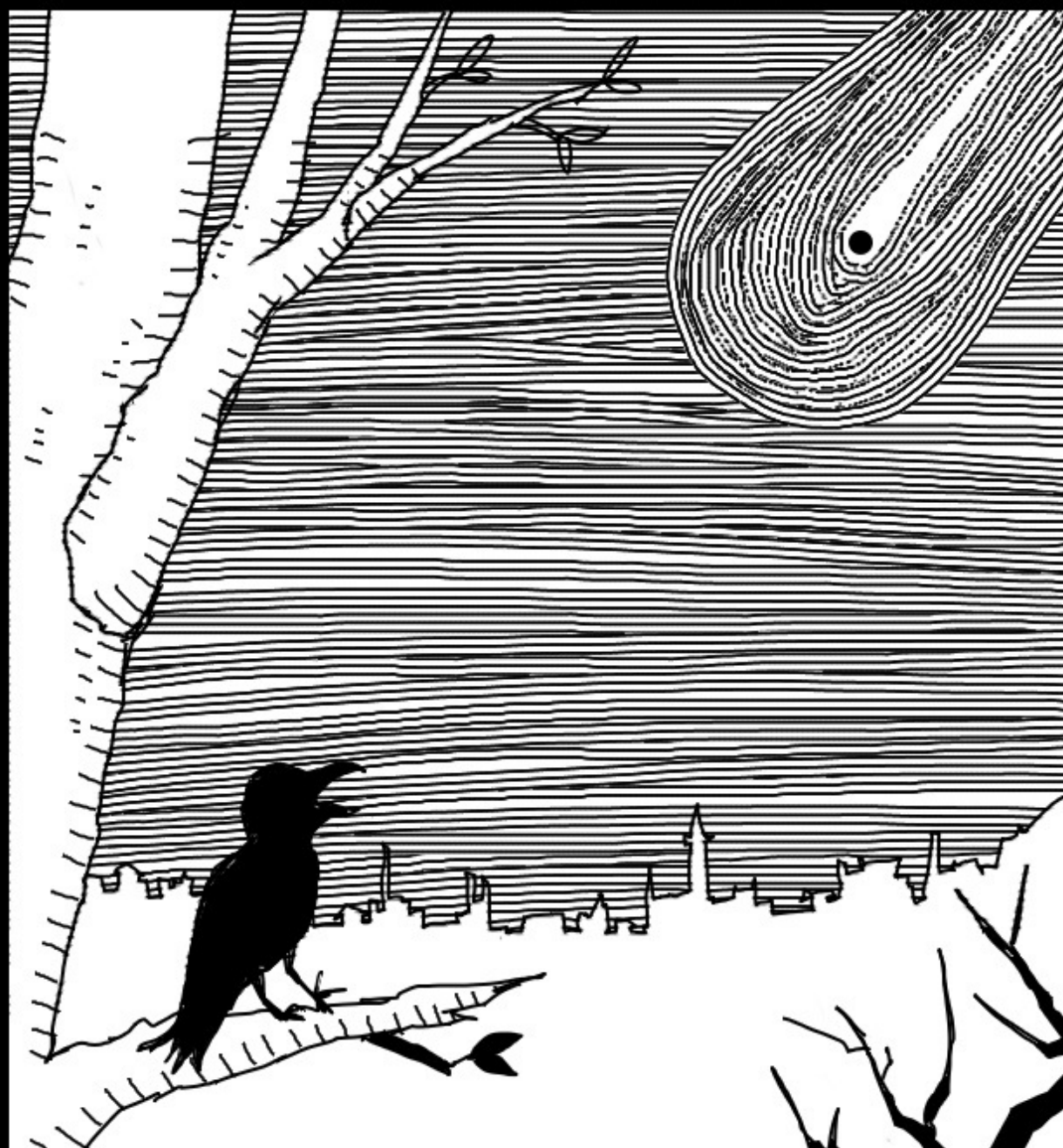


孤独な



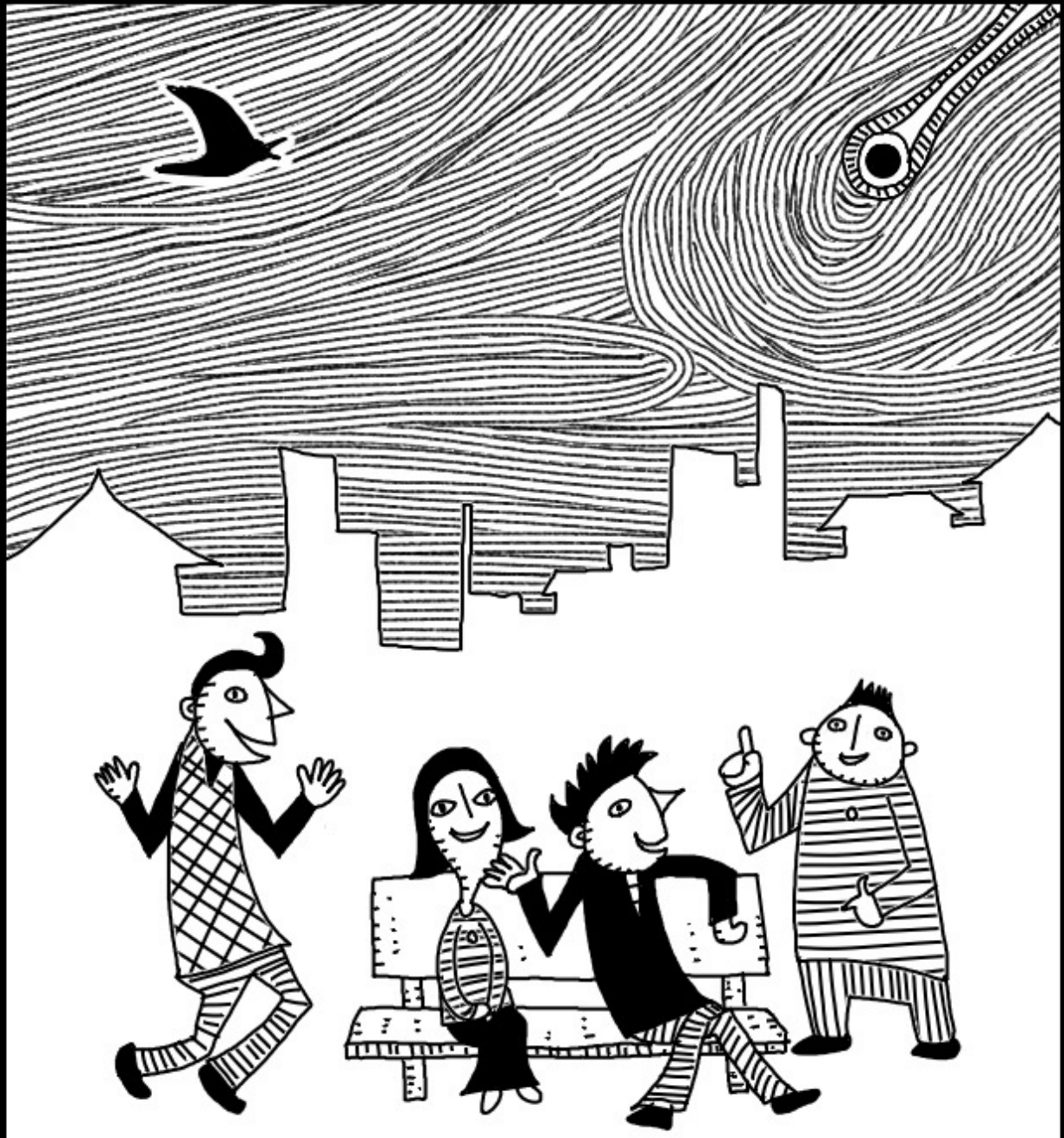
ツキガラス

ある日カラスは、空の彼方に



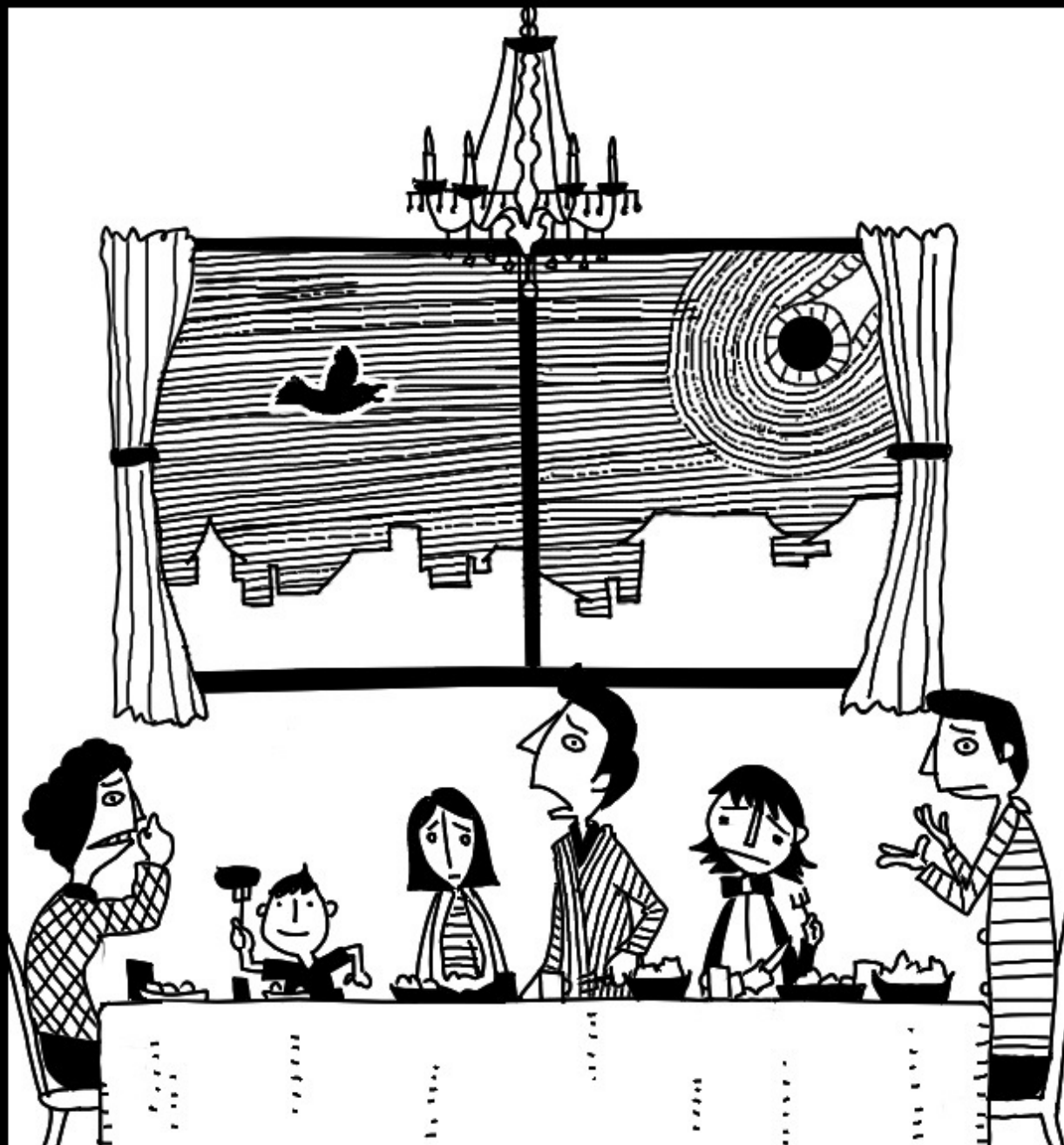
黒光りしている彗星を見つけた。

カラスは、彗星落下！と叫んだが



人々は、おしゃべりに夢中で、  
聞いていなかった。

カラスは、彗星落下！と知らせたが



人々は、食事中にそんな事を  
言うなんて、マナー違反だと思った。

カラスは、彗星落下！とわめいたが



人々は、車にキズをつけたのは、  
コイツなんじゃないか、と疑った。

カラスは、彗星落下！と壁に書いたが



カラスの書く文字は、  
誰にも理解できなかった。

カラスは、彗星落下！と騒いだが



人々は、カラスに適切な助言を  
しようと、頭を悩ませた。

カラスは、彗星落下！とつぶやいたが



人々は、大丈夫だよと、  
やさしく微笑みかけるだけだった。

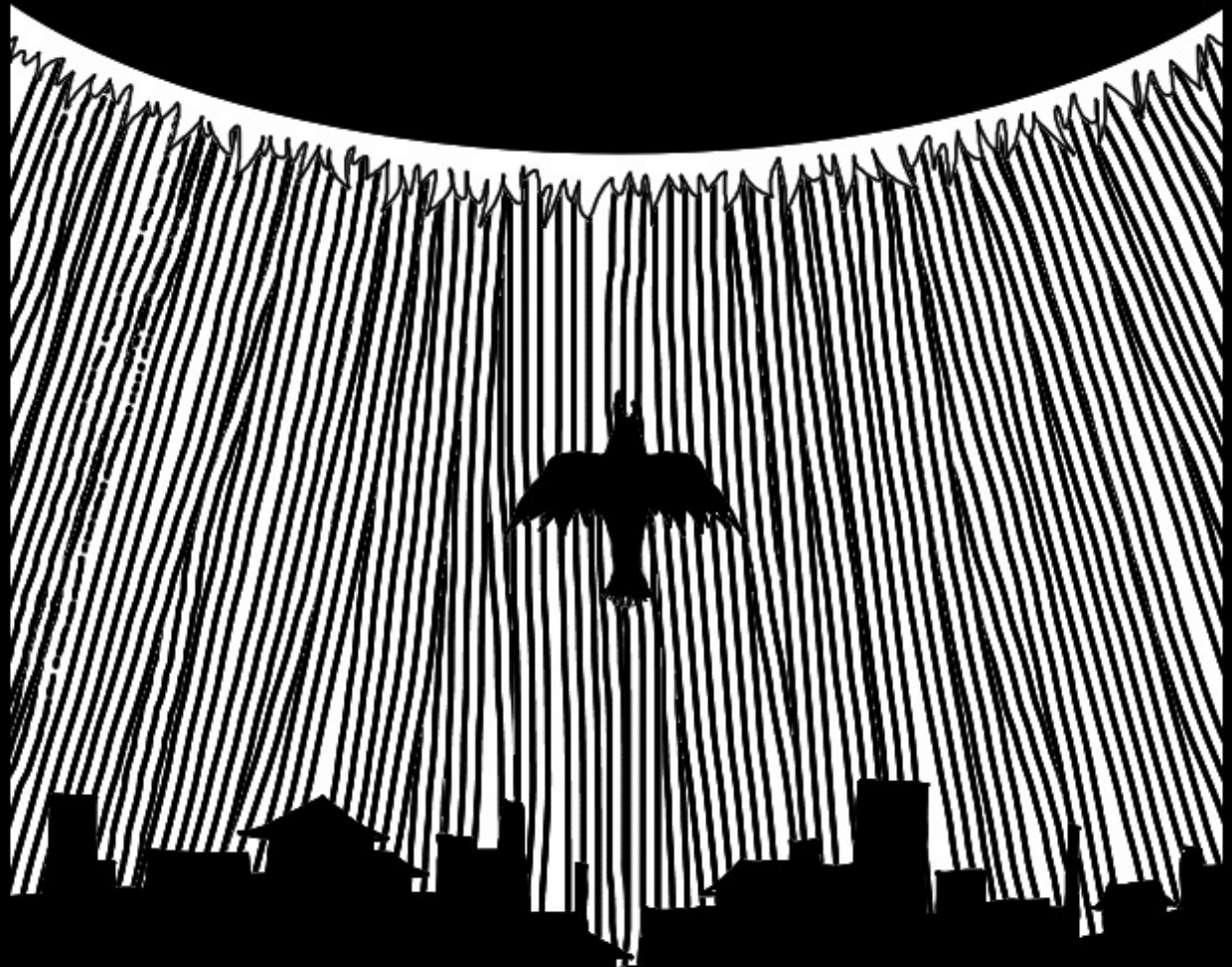


カラスは、彗星落下！と訴えたが



そもそも誰も、カラスの  
言葉など聞く気はなかった。

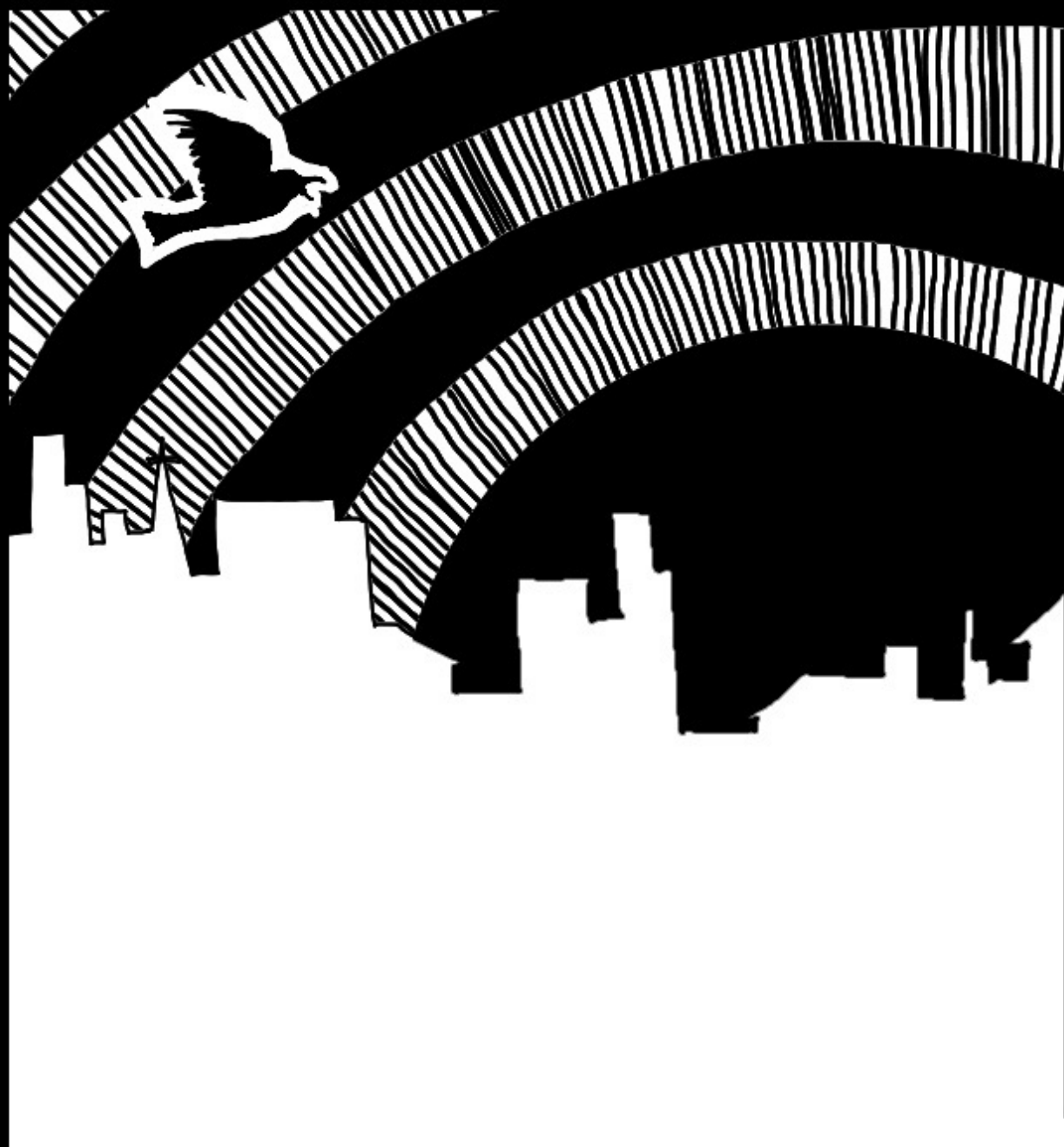
そしてついに、彗星が落ちてきた。



カラスは、のどから血を出しながら、叫び続けた。

世界は黒い炎に包まれた。

けれど、彗星は、ギリギリの  
ところで地上からそれた。



だから、結局、何も起こらなかった。

人々は、一日中、明日の準備に  
追われていたので



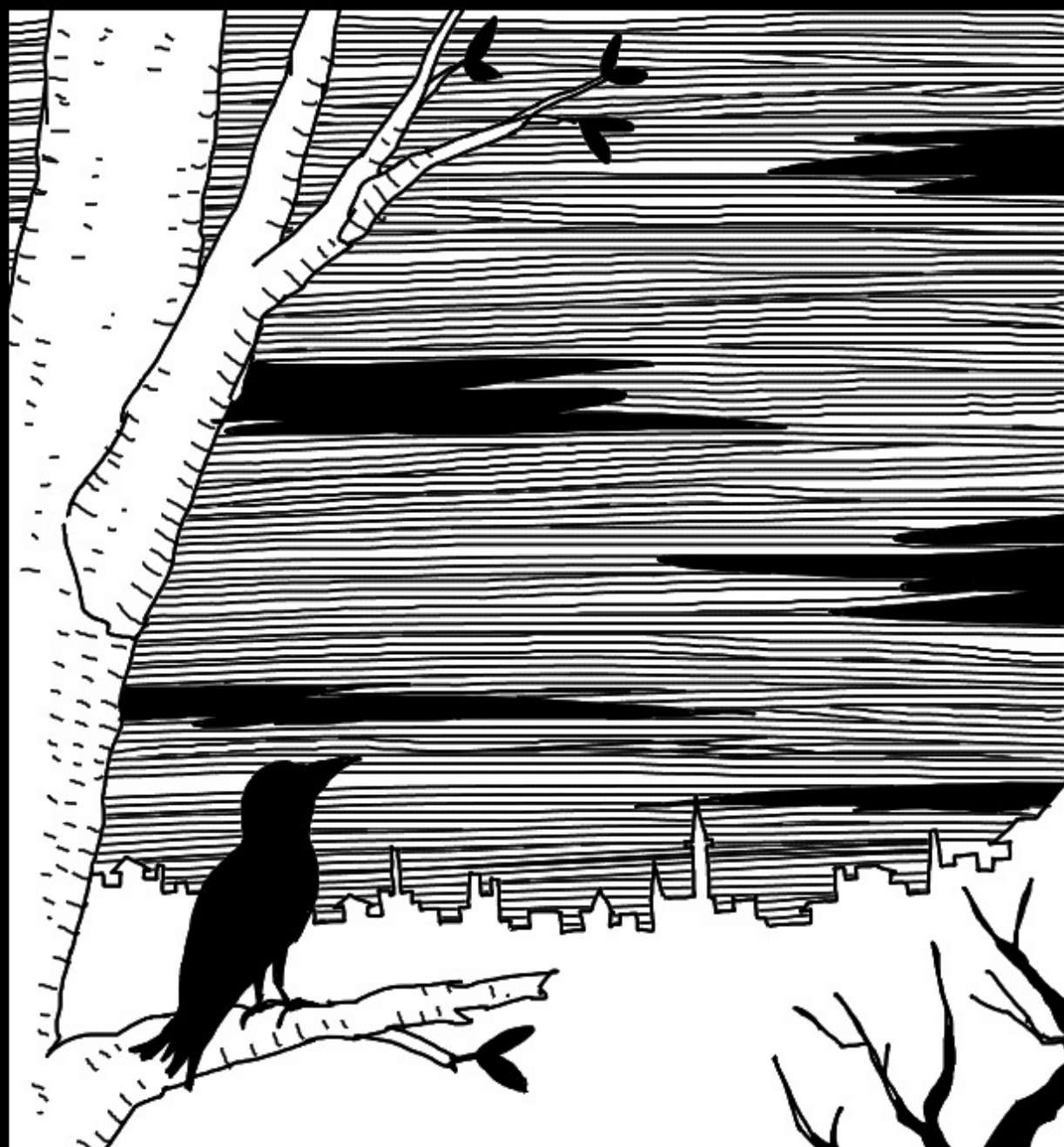
誰も何も、気がつかなかった。

以来、カラスは、嘘ツキガラス。



カラスは、もう、何も言わない。

何も言わずに、



一羽で、空を見ている。

ただ、





本当のことは、  
カラスにもわからない。

完